

越谷南ロータリークラブ会報

会長 岩淵秀一 幹事 染谷宗一 会長エレクト 小林光蔵

R I 会長テーマ 「奉仕を通じて平和を」

クラブ会長テーマ 「奉仕を楽しむ為に60名会員の達成を」



平成25年3月7日 第1898回例会

国歌・ロータリーソング斉唱・黙想

誕生祝・記念月祝



会長挨拶

岩淵秀一会長

皆さん今日は、先日2月28日より3月3日まで台中南区風扶輪社に訪問をしてきました。第26回の図画展と創立26周年記念式典に出席を致しました。式典や図画展を通じて素晴らしい交流ができました。特に夜、酒を飲みながらの懇親は、大変有意義な時間でした。

また、出席した皆さんから詳しいお話を聞かせていただけたと思います。米山記念奨学委員会さんの企画で今月、9日には米山梅吉記念館に見学に行ってきます。



今日は第一例会ですのでロータリーの話させて頂きます。

今日は、ロータリー米山記念奨学会のはじまりの話です。

日本のロータリアンが海外からの留学生を支援現在、日本のロータリアンは、個人で、クラブで、地区で、そして国際ロータリーやロータリー財団のプログラムを通じて、さまざま

活動をしています。そんな中であって、日本のロータリー独自の活動としては、「ロータリー米山奨学金」を第一に挙げることができるでしょう。

この奨学金の名前は、もちろん日本のロータリーの創始者である米山梅吉氏に由来するものです。第2次世界対戦中に国際ロータリーから脱退した日本のロータリーは、1949年に復帰しましたが、残念ながら、米山梅吉氏は、それを待たずに、この世を去りました。

米山奨学金の制度はどのように生まれたかは、『東京ロータリークラブ50年のあゆみ』に見ることができます。これは、米山梅吉が、生前、東南アジアに深い関心を持っていたことから。ロータリー財団の奨学制度に模して、年2名の奨学生を。アジア諸国から招致しようとする計画であった。米山奨学制度は、1952年12月3日に、成案が可決され、翌年の2月25日に、募金計画が決定し、目標を260万円において、会員及び会員関係事業所から、2年継続の拠金が募られた。面白いことに、その寄付第一号は、アメリカ人から寄せられた。当時、わが例会の“常連”で、バージニア州のロータリアン、ウィー・ネルソンが、3月15日の例会で寄付してくれたものである。国際奨学事業の発足には、まことに相応しい情景であった。もうおわかりのことと思います。米山奨学金は、最初、東京ロータリークラブ(RC)のプログラムとして始まったのです。当時は、米山基金という名称で呼ばれていました。現在、日本が誇るべき、この米山奨学金の第1号の寄付者が日本人ではなくアメリカ人であったことは、あまり知られていないでしょう。現在では、海外から日本に留学している学生の中から、奨学生を選んでいますが、最初は、現地で留学生を選考し、その後、学生が勉学のために来日しました。この米山奨学生の第一号、いろいろところで紹介されていますので、ご存じの方も多いと思いますが、タイのソムチャード・ラタナチャタ氏です。バンコクのロータリーでは国際奉仕委員長ギールミデン氏についてプレムプラチャトラ殿下が中心になって、米山基金による対日留学生の選考が慎重に進められた。その結果、バンコク近郊バンケンのカセツァルト農業大学を卒業したソムチャード・ラタナチャタ君が最終的に選ばれて推薦されたのであった。当時25歳のソムチャード君は養蚕学、果実の栽培と保存を日本で勉強したいと伝えてきた。それは歓迎すべき第1号の留学生ではあったが、委員たちの苦勞も始まった。

日本の大学への入学手続き、渡航、入国の世話など、クリアしなければならない難事がたくさんあった。たとえば、旅費

の外貨払いにしても、当時は大蔵大臣(佐藤栄作)に申請し許可を求めなければならないという面倒な代であったのである。しかし、委員たちの東奔西走の結果、東京大学農学部および大学院に入学許可の内諾が得られた。宿舎は国際学友会からの提供を得、受け入れ態勢が整ったのである。慣れぬ仕事の連続を米山奨学委員たちは、持ち前の奉仕の情熱で乗りきったのだ。ジョージが来日しないために、余裕が出来た米山基金を、どう活用しようかと考えている折柄、東京大学で水産資源学を勉強していた、インド人学生、イーペンが、学資杜絶のため、学業半ばで帰国寸前にあることが判ったので、彼に、米山奨学金を支給することを即決した。同じくインド人学生で、東京水産大学に在学した、A.B.ロイも、つづいて、米山奨学生に採用した。米山奨学事業は、もし成功すれば、これに、他のロータリークラブの参加を求め、ゆくゆくは、全国的事業に発展させたいというのが、当初からの構想であった。ソムチャードを通じて、タイのロータリアンと結び得た喜びもさることながら、二人のインド人学生を現地採用することによって新しい奨学制度が生まれ、それによってより計画的に東京 RC の「米山基金」による奨学制度は3名の留学生への給付終了をもって終結することになった。前節で紹介したソムチャード、イーペン、ロイの諸君であった。もともと米山基金設立当初から、この国際事業は全国のロータリークラブ全体の活動としての展開が考えられていたのである。であるから、「米山基金の終結」とはいつたが、3名の留学生への援助を成し遂げたという実績をもって、新たなる展開が模索される時期が到来したといい直すほうがよいだろう。と書かれています。さらに1957(昭和32)年*J月、新組織のための試案が穂積重威によって24条にまとめられた。それに対して、9月18日に招集された第60地区および第62地区内の各クラブ会長による熱心な審議が行われ、新組織が決定された。新組織は名称を「ロータリー米山奨学委員会」とした。そして同委員会は将来、財団法人に組織されることを前提として規約化されたのであった。委員は参加クラブから、会員数50名または26名以上の端数につき、米山奨学委員を1名選出することとし、常務委員を委員の互選により、委員長ほかの役員は常務委員による互選によって選ぶことになり、ここに、米山奨学事業を推進出来る見通しがついたのである。これならば成功するとの自信を得たので、他クラブへの呼びかけが始められた。その結果、当時第60及び62地区では、この東京クラブの奨学事業を継承するために、1956年地区大会に於て、その支持を決議した。即ち、地区内ロータリークラブは、会員一人当たり、年600円の寄付を決定したのである。翌年、米山奨学会が設立され、初代委員長には、常に蔭にありながら、この事業の真の推進者であった、小林雅一が就任した。この米山奨学会は、関西以西のロータリークラブが、ぞくぞくと参加するに到って、名実共に、日本のロータリーの大事業となった。東京 RC の「米山基金」による奨学制度は3名の留学生への給付終了をもって終結することになった。前節で紹介したソムチャード、イーペン、ロイの諸君であった。もともと米山基金設立当初から、この国際事業は全国のロータリークラブ全体の活動としての展開が考えられていたのである。であるから、「米山基金の終結」とはいつたが、3名の留学生への援助を成し遂げたという実績をもって、新たなる展開が模索され

る時期が到来したといい直すほうがよいだろう。と書かれています。さらに1957(昭和32)年*J月、新組織のための試案が穂積重威によって24条にまとめられた。それに対して、9月18日に招集された第60地区および第62地区内の各クラブ会長による熱心な審議が行われ、新組織が決定された。新組織は名称を「ロータリー米山奨学委員会」とした。そして同委員会は将来、財団法人に組織されることを前提として規約化されたのであった。

委員は参加クラブから、会員数50名または26名以上の端数につき、米山奨学委員を1名選出することとし、常務委員を委員の互選により、委員長ほかの役員は常務委員による互選によって選ぶことになった。東京 RC の小林雅一が初代委員長となり、初期メンバーが選出された。そして、ロータリー米山奨学委員会規約の主要点は、次のように決定された。

<目的>

主旨において、あとの財団法人ロータリー米山記念奨学会と同様であるが、

(1)外国からの招致を主体とし、在日留学生を第二義扱

(2)ロータリークラブの推薦を必須条件とする

という内容で、現行の制度とは少し違っている。しかし、実際の運営面では在日留学生のみが選考対象とされた。また奨学期間は2年と規定され、場合により延長を認めることになった。これは「米山基金」による奨学経験が生かされた結果であった。

このような規約を決定したうえで、1957年12月18日に第1回の常務委員会が開催された。この時の収支決算報告書によると、当時すでに第350、355および360区に分割されていた旧第60および6区からの寄付金合計額は153万1,200円に達し、利息収入を加えると収入総額は154万3,215円になった。

参考文献 東京ロータリークラブ創立50周年のあゆみ

幹事報告

中島頼光副幹事

1. 第9回定例理事会の承認事項。
2. ロータリーの友とガバナー月信が届いています。
3. 地区よりR I 会長賞チャレンジの願いが来ています。
4. ロータリー・リーダーシップ研究会 (RLI) パートⅢの案内が来ています。
5. インド第3000地区職業研修チーム (VTT) 日程変更のお知らせが来ています。
6. 田中徳尚ガバナーより「DVD／田中作次物語」購入の願いが来ています。
7. 地区より4月7日開催「鎮魂と希望のコンサート」チケット購入の願いが来ています。
8. ガバナー月信の有料記事で、八人の方を紹介しました。(八人、八様、八躍)
9. 大宮東ロータリー創立35周年記念公開例会の案内が来ています。
10. 地区より2013~14年度来日学生受入ホストクラブ会議の案内が来ています。
11. 地区より「SAKUJI 作戦」推進の願いが来ています。



- 1 2. 地区より 2013 学年度ロータリー米山記念奨学生世話クラブ決定のお知らせが来ています。
- 1 3. 日本事務局経理室よりロータリー・レート 3 月レートが 1 ドル 92 円になりました。
- 1 4. 3 月 1 4 日、越谷能楽堂でイベントが開催されます。

委員会報告

◇米山奨学常任委員会 岡田信昭委員長
 去る 3 月 3 日に 2012 年度奨学生の修了式が開催されました。馬君のお母様が 2 月 26 日から来日しておりまして、石塚カウンセラーと私とで一緒に参加してきました。33 名の奨学生を採用し、24 名が卒業、約 10 名が日本で就職することとなりました。1 年間のお例を馬君が代表して述べていました。なお、3 月 28 日に馬君とお母様が例会に出席します。また、その日の夜に送別会を行いますので、皆様ご参加をお願いします。また、3 月 9 日に米山記念館を訪問しますので、こちらもご参加をお願い致します。

◇社会奉仕委員会 中村幸江委員長
 4 月 6 日にグラウンドゴルフ大会があります。大勢の皆様の参加をお願いします。

◇広報雑誌委員会 藤田委員長
 ロータリーの友から、読んでいただきたい記事のご紹介をいたします。
 横組みから、P5、P17、P29、P49
 縦組みから、P10、P16、P29
 です。

ご挨拶 関森初義ガバナー補佐

みなさんこんにちは。先程来、米山奨学生のお話が出てい



ますので、その件について少しだけお話させていただきます。米山奨学制度の 2 つの特徴は、カウンセラー

制度があることと、世話クラブ制度があることです。他の奨学金制度にはこのような制度はありません。また、この度米山記念館に訪問されるということですが、事前にいろいろと勉強していくと、より理解が深まると思います。

今月は識字率向上月間ですので、識字率の低い地域への支援をお考え頂くようお願いいたします。

なお、3 月 20 日に IM があります。3 部構成で、様々なテーマを設けて開催しますので、皆様のご参加をお願い致します。

記念品授与 R財団(PHF+3) 大熊 進会員へ



卓話「台中南区扶輪社訪問報告」 大熊 進会員

今年も台中南区扶輪社の記念式典に参加するため、台湾へ行ってきました。例年通りとなりますが、桃園国際空港に到着し、観光はせず、そのままホテルに行って先発組と待ち合わせをして、食事に行きました。翌日は新幹線で台中まで移動しました。45 分しかかからないです。そして台中南区扶輪社の国際理解図画展に参加し、26 周年行事に参加しました。私は 8 周年の時から、3 回行かなかただけで、他はずっと参加しています。さすがにこれだけ参加すると、向こうの方たちにも顔を覚えてもらい、歓迎してもらえました。向こうの地区のガバナー補佐が女性だったことも驚きましたが、今回特にびっくりしたのは、台中南区扶輪社の会員の奥様の服の派手さ加減でした。キラキラした服で踊っている姿はとても印象に残っています。今回も楽しい旅行でした。

スマイル報告

3 月 20 日 IM には皆様のご参加宜しくお願ひします。
 ・・・・越谷北ロータリークラブ関森初義ガバナー補佐
 関森ガバナー補佐ようこそ・・・飯泉・岩渕・中島
 関森ガバナー補佐ようこそ。よろしくご指導お願ひします
 ・・・・吉田
 台中南区扶輪社訪問団の皆さんお疲れさまでした
 ・・・・糸賀・岡田・久木野・水町
 台中南区 RC 親睦訪問ご苦勞様でした。浜野さん木村さんあ
 りがとうございました・・・吉田
 台中訪問ご苦勞様でした。又、台中の報告有難う御座います
 ・・・・岩渕
 台中訪問報告、ご苦勞様です・・・深井
 台中南 RC のメンバーと親睦を深めて来ました・・・藤田
 卓話ありがとうございました・・・石野・佐藤
 お祝、ありがとう・・・石田
 結婚月御祝いありがとうございました・・・佐藤
 お花ありがとう・・・本田
 今月もよろしくお願ひします・・・池田・斎藤
 3 月 13 日パレスホテル大宮において米山記念奨学生終了式
 を無事終わりました・・・石塚
 4 月 6 日グラウンドゴルフ大勢のご参加お待ちしております
 ・・・・中村
 中島次年度幹事より事務局にパソコンの寄贈がありました。
 有難うございました・・・岩渕
 スキー同好会無事に楽しく行って来ました。ご参加の皆さん、
 ご協力ありがとうございました・・・スキー同好会・瀬尾

先日のスキーでは大変お世話になりました。ありがとうございました
 いました・・・・・・・・・・・・・・・・・・浅水
 作業着に穴があく程、仕事しています・・・・・・・・遠山
 春となり暖かくなりました。今月も宜しくお願いします
 ・・・・・・・・・・・・・・・・中尾
 本日早退させていただきます。申し訳ございません
 ・・・・・・・・加藤・清村・染谷

出席報告

例 会 日	平成25年3月7日		
会 員 数	51名	出席	27名
出席免除者	11名	欠席	20名
出 席 率	67.50%	前々回MU	1名
MU 修正率	90.00%	会報担当：水町	

————— クラブプロフィール —————
 ☆姉妹クラブ 国際ロータリー第3460地区
 台中南区扶輪社（中華民国台中市）
 ☆例 会 日 毎週木曜日（PM0：30～1：30）
 ☆例会会場・事務局 〒343-0842
 越谷市蒲生旭町10-14 中野ビル2階
 TEL 048-987-5761
 FAX 048-987-5762
 E-mail info@koshigayasouth-rc.jp

台中南区扶輪社訪問

